

板垣 直子（いたがき・なおこ）

1、プロフィール

詩文学研究家、評論家。美学、哲学の素養と欧州文芸学を基礎として、時勢に動かされないで評論活動を展開した。

<生没>

1896(明治 29)年 11 月 18 日 ~ 1977(昭和 52)年 1 月 21 日

<代表作>

評論『評伝樋口一葉』『明治・大正・昭和の女流文学』

『夏目漱石－伝記と文学－』

<青森との関わり>

北津軽郡栄村(現五所川原市)生まれ。

2、作家解説

はじめ平山姓。西洋美術史家、板垣鷹穂と結婚、板垣姓となる。明治 43 年北津軽郡栄小学校を卒業、弘前高等女学校に入学。大正3年卒業。日本女子大学英文科に入学、大正7年卒業後も研究科にあり、東京帝国大学第一回聴講生となる。

大正 12 年ゲオルヒ・グロナウ『レオナルド・ダ・ヴィンチ』を翻訳出版。

現代文学を評論したものに『現代小説論』(昭和 13 年)『事変下の文学』(16 年)などがあり、女流文学に関しては、『評伝樋口一葉』(17 年)、『林芙美子』(31 年)、『平林たい子』(31 年)、『明治・大正・昭和の女流文学』(42 年)などに関心の深さを示す。もう一つの分野は『漱石文学の背景』(31 年)『夏目漱石－伝記と文学』などの漱石研究である。

一方、『欧州文芸思潮史』(25 年)のような欧州文芸学の学殖を示す著書があり、比較文学研究では島田謹二、吉田精一らと並ぶ存在であることが裏づけられている。

3、資料紹介

○「犀星と春夫」

原稿

260mm×350mm(15枚)

佐藤春夫が「文芸時評」において、室生犀星の作品を酷評したことに対する筆者の見解を述べており、「この事件は氏の文筆生涯に印した一点のしみにも似て、氏のために惜しんでも余りある」と佐藤春夫の非を指摘している。